メンタル弱めな人のお話

フランキスパス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
メンタル弱めな人のお話

【Ｎコード】
Ｎ６６８８Ｚ

【作者名】
フランキスパス

【あらすじ】
至ってテンプレな人のお話。神様に会って、能力を貰って、マンガの世界に旅立って。ただ一つ違ったのは、彼の精神は他のテンプレオリ主達より弱かった。ただ、それだけの話。

テンプレ的なプロローグ

回りは一面の白、白、白。

さらに正面にはおおよその人がイメージしているだろう神様的な格好をしたひげが素敵に白いじいさん。

「…なるほど、テンプレ的な何か」

「話が早くて助かるのう」

「…マジで神様？　何、願えばいくつか叶えてくれるの？」

「3つまでじゃの。…わかったわかった、戸籍などはちゃんとしておくからそんな金と人脈と理想の奥さんなんて願いはやめい。というかお主、存外に現実的なんじゃな」

「あ、やっぱり考えている事分かるのな。いやまあ、欲しかったのは事実だし。やっぱりここはテンプレにマンガとかの能力言うべき？」

「そうじゃの。実際の所お主を此処に連れてきたのはそういった、いわゆるオリ主のいるマンガ世界が見たくなったからじゃし」

「神様ってのは娯楽ですら世界使うのか。さすが神遊び、大規模なんだな…」

「さあお主は何が欲しい。こちらで決めてしまうのはつまらんからの。お主が決めてくれ」

「じゃあ…フレイムヘイズになりたいかな。不老ってのはあこがれるんだけど、大丈夫？」

「まあ不死ではないならかまわんが…またずいぶんと曖昧な願いをしおって。もっと細かく願ってもかまわんぞ」

「いいよ。一から十まで決めるのはつまらないって神様の言葉だよ」

「…ふむ、なるほど。では細かくはこちらで決めよう。何、お主の悪いようにはせん」

「ありがと。二つ目いい？　…そうだ、完全記憶能力欲しい。というより、身に付けた技術の精度とかが錆びないようにしたい」

「…まあお主の言いたい事は理解した。しかしこれでは、チートらしいチートがないではないか」

「チート、ねぇ…。…あー、じゃあ直死の魔眼。ほらチート。これでいい？」

「…お主、完全に投げやりじゃのう。まあわかった。では、儂を楽しませてくれよ？」

その声を最後に、目の前が真っ暗になった。

…こんな形で、あの地獄は始まった。

テンプレ的なプロローグ（後書き）

…今書いている小説のネタが浮かばない。これがいわゆるスランプ？　まあそれでも何かしら書かないと、と思ってテンプレ的なこれを書き始めました。どんなに時間かかっても書き続けるので、出来ればひっそりと応援してくれると嬉しいです。

そして地上

気づいたら、藤崎（とうざき）　榕（しきみ）は森の中にいた。

木の葉や枝の切れ間から見える空には、そのわずかな隙間からですら分かるほどの満天の星空。星や月のわずかな光が緑の屋根に遮られた森の中はまさに一寸先が闇となり、辺り一面を漆黒に染めている。

…まあ裏を返せば、どう見ても、回りに文明の影はないという事だった。

…これは、いつの時代に転生したのだろうか。

俺の覚えている現代の山奥、という考えが通じるとは思えない。

何せ、俺がここにいるのはまさに神の奇跡というべき力によってだ。

どんな現象が起こったのかなんて普通の人間たる俺には予想もつかない事なんだろう。

俺はどうやら一度死んで、転生したらしい。

前世として生きていた頃の最後の記憶は、寝る前に携帯をいじっていた事だから、多分寝ている間に何かあったのだろう。またはこれが全て夢か。

まあともかく、そうして気づいたら、全てが真っ白な空間で、そこで俺は神様に出会った。神様はどうやらとても暇だそうで、暇潰しとして、俺に二次創作的な能力を持たせて転生してくれたらしい。

貰った能力としては、大好きな小説だったシャナのフレイムヘイズになって不老の存在＋ちょっとした戦闘能力ゲットと、一度覚えた知識や技術を絶対に忘れないようになる事で、一度理解してしまえばどんなに学習や練習をサボったりしても問題無いようになるという完全記憶能力。

ぶっちゃけ、この二つがあればこれからの人生は楽に生きていけるはず。何せ一回理解してしまえば何でもできるようになった上、フレイムヘイズという人外の力もあるのだから、大抵の困難は何とかなるだろう。
そんな感じで楽に生きていく為だけで能力を選んでいたから、神様には不満を言われた。どうやら俺にも二次創作のテンプレオリ主をやって欲しいらしい。
その為、三つ目の能力はかのチート能力、直死の魔眼。
正直、いらない。
この三つの能力を自由に使って、自由に生きて、いつか死ぬであろう俺を見届けるのが神様のこれからの娯楽らしい。プライバシー、とか神様相手に考えるのは無駄なんだろう。

そんな事をつらつらと考えていると、急に、全身が燃えるように熱くなった。

「え、あ、あああぁぁぁぁぁぁ！？」

あまりの熱さに思わず倒れ、呻き、のたうち回る。熱はどんどん熱くなっていく。

熱い、熱い、熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い
熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い
熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い熱い！

藤崎　榕を形作っている物の全てがやきつくされる。

指、爪、手、足、皮膚、脂肪、筋肉、体液、内臓、骨、頭蓋、脳髄、
記憶、過去、未来、現在。

そのすべてが、れいがいなく、まっかにやきつくされて、

――――――――――――――――

目が覚めた。

目の前には星空。どうやら、仰向けに倒れているらしい。…やっぱり、現代ではお目にかかれなさそうな、綺麗な星空だ。

…あれ、さっき見た時はもっと、こう、なんというか見えなかったような…

そんな違和感に、あたりに視線を巡らせると、違和感の正体はあっさり見つかった。

俺を中心に、木々が消えていたのだ。俺を中心に、たぶん3メートルほど。

よく見れば、消えた木々の痕跡が地面に黒く炭化して、転がっていたのだろう。しかし、この時の俺は気づかなかった。気づけなかった。意識は完全に別の物に持っていかれていた。

周りに見える、闇の中。無数に蠢く黒い線。

縦横無尽に、無差別に。

木の幹に、枝に、木の葉に、地面に、…自分の体に。

例外なく走るその線は、余りにも脆く、儚く、だけど確かに、確固としてそこに在って。

――――これが「死」なのだと、理解させられた。

吐き気がこみ上げた。あわてて起き上がり、しゃがみこんでえずく。幸い、というべきか、気持ち悪さだけで、嘔吐する事はなかった。

涙に滲んだ視界の中、地面に走る無数の線。

情けない悲鳴は、自分の口から上がっていた。必死で飛び退き、あとずさりしようと触れた地面の、線。

指が、沈みこむ。固い、大地に。

ひっ、あ――――――

「落ち着け、藤崎　樒！」

回りに居なかったはずの、俺の名前を呼ぶ声は、俺の精神に冷水を浴びせてくれた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6688z/

メンタル弱めな人のお話

2011年12月23日04時52分発行